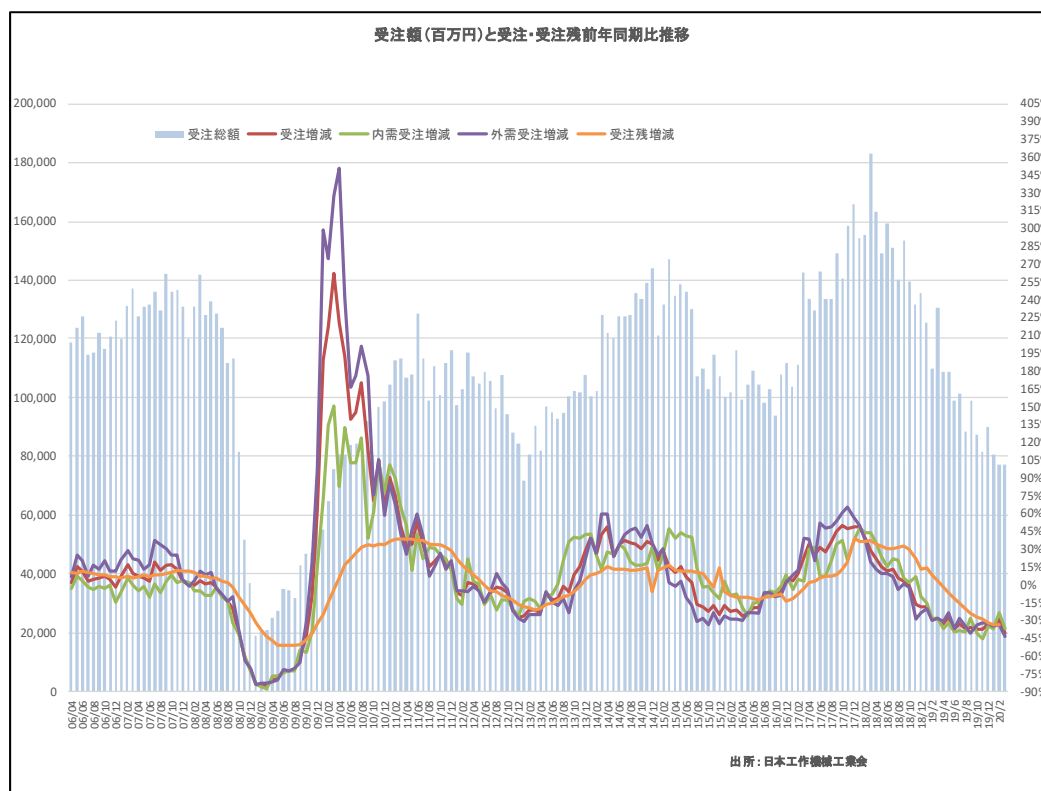


## 工作機械工業会 3月受注速報 3月40.8%減で4月以降コロナ影響更に強まる

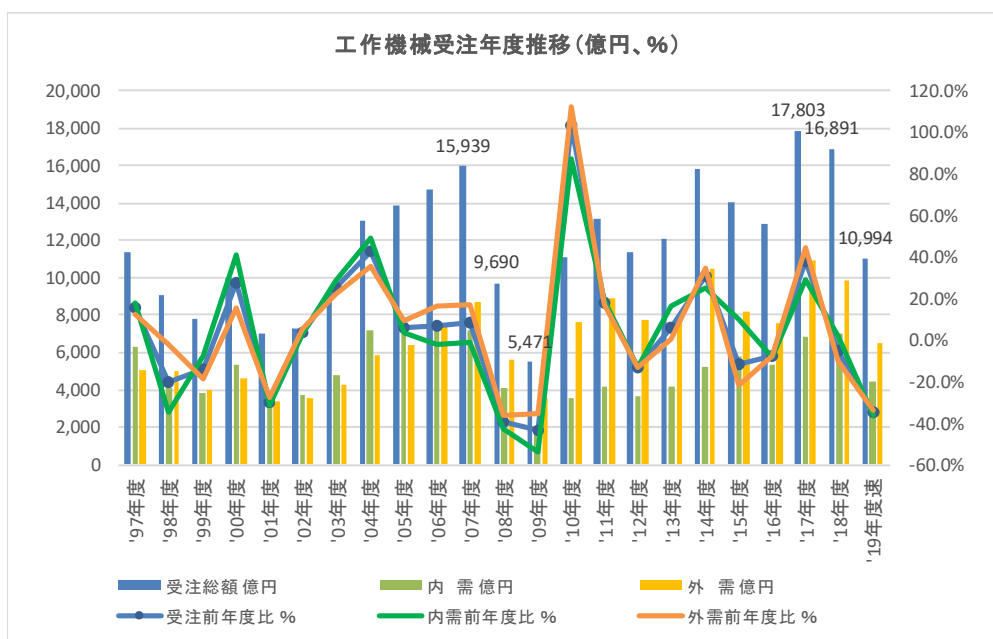
3月受注は同月比40.8%減774億円、年度末も2月並みで3月では10年3月以来の低水準

4/9の15時に日本工作機械工業会の3月受注速報が開示予定された。月受注は前年同月比40.8%減の774億円にとどまった。2月の772億円（前年同月比29.6%減、1月比4.4%減）に対しても年度末で毎年盛り上がる月ながら前月比横ばいで、底抜け状況にある。前年同月比18ヶ月連続減少、2月が2013年1月の716億円以来の低水準の状況に変化は無く、3月としては2010年3月の758億円に近い数字となった。内訳は内需が342億円（36.5%減）で16ヶ月連続減、3月としては2013年3月の336億円以来の数字。外需は431億円（43.8%減）で、18ヶ月連続マイナス、2010年2月の453億円以来の低い水準。今後、個別開示、業種別開示は4/21の確報待ちとなるが、3月は中国に加えて全世界でコロナウイルスの影響が現れたと見られる。



2019年度工作機械受注は34.9%減の1兆99億円と2010年度の1兆1136億円を下回る

2019年度としての受注総額は辛うじて1兆円を上回る1兆99億円（34.9%減）となった。収益が出せる月次1000億円を下回り、2010年度の1兆1136億円を下回る厳しい状況にある。販売額の開示は無いが、1兆3350億円（19.9%減）程度で、受注残高もなんとか適正水準の5000億円を確保できた模様。



**2020年暦年受注は8500億円（31%減）と2年連続3割減懸念で各社は上期赤字転落も**

コロナウイルス影響は人的交流を世界的に阻む動きにあり、受注の底打ちが秋以降にずれる懸念があり、2020年受注は8500億円（31%減）、2年連続で30%減も視野に入る。

なお足元で心配なのが販売額の推移。通常、3月は期末月でもあり、年度の中で3月の占める割合が12~18%と通常月の1.5倍~1.8倍に達する。但し今年は2月が中国で全産業の工場が停止、中国での工場稼働は再開もまだ2/3レベルに達しないとの報告もある。国内も自粛が相次ぎ、3月は出荷済みも検収が上がらない可能性が高く、3月分の売上減額で、3月決算企業は売上高が5~8%減額されよう。既に3/6には牧野フライスが3度目の減額修正をアナウンス、3/27には自動車向けが多いミクロン精密が20/8上期を減額、4/6にはツガミが決算発表の延期（5/14から5/27）を表明している。

新年度は4月、5月受注が世界中で低迷が見込まれ、売上面でも国内外の主力工場の稼働率が軒並み低下する状況が想定され、工作機械関連企業は少なくとも上期に軒並み赤字転落が見込まれる。

百万円	受注総額	受注増減	内 需	内需受注増減	外 需	外需受注増減	販売	販売増減	受注残	受注残増減
2011年	13,262	35.5%	4,216	37.1%	9,046	34.8%	11,793	38.5%	5,449	0.3%
2012年	12,124	-8.6%	3,758	-10.9%	8,366	-7.5%	13,295	12.7%	5,437	-0.2%
2013年	11,170	-7.9%	4,008	6.6%	7,162	-14.4%	10,947	-17.7%	5,661	4.1%
2014年	15,094	35.1%	4,964	23.8%	10,130	41.4%	14,222	29.9%	6,522	15.2%
2015年	14,806	-1.9%	5,862	18.1%	8,944	-11.7%	15,326	7.8%	6,075	-6.9%
2016年	12,500	-15.6%	5,305	-9.5%	7,195	-19.6%	12,806	-16.4%	5,225	-14.0%
2017年	16,456	31.6%	6,294	18.6%	10,162	41.2%	14,400	12.4%	6,942	32.9%
2018年	18,158	10.3%	7,503	19.2%	10,654	4.8%	16,848	17.0%	8,262	19.0%
2019年	12,299	-32.3%	4,932	-34.3%	7,367	-30.9%	15,016	-10.9%	5,613	-32.1%
2020年工業会予	12,000	-2.4%	4,900	-0.6%	7,100	-3.6%	12,600	-16.1%	5,607	-32.1%
2020年DO予	8,500	-30.9%	3,680	-25.4%	5,320	-27.8%	9,500	-36.7%	4,613	-17.8%

## 工作機械株は10年来安値もアンダーパフォーム続く局面

工作機械株は昨今の日本株暴落を受け、10年来安値圏まで下落した銘柄も多い。しかし特にこれから悪化が本格化する米国、また日本も厳しく、愛知に本社工場を持ち、米国依存の高いオークマ、欧州の生産拠点の大半が停止状況のDMG森精機、自動車・航空機向けに強く、神奈川に主力工場を有する牧野フライスなど、工作機大手は販売面だけで無く、製造面でも今回の8地区の緊急事態宣言地域に工場を有し、海外工場も動きがとれないなど軒並み厳しい。株価は10年来の安値圏も、オークマなどはさらに下値模索が続こう。また工作機械関連商社も流通ストップ状況で、優良イメージのミスミなども高いPERであり引き続きアンダーパフォームしよう。